

心身ともにリフレッシュ ～明日からの活力～



最初の競技、50m走

皆さん、こんにちは。日本では最近、季節はずれの台風が来たり、真夏日を迎える日があったり、かと思えば寒い日が続き、と変なお天気ばかりが続いているようです。カンボジアでは時季的には雨季に入ったのですが、まだまだ日差しの暑い日が続く、雨も2、3日に一度降る程度です。

さて、今回のドリーム通信では、毎年恒例となった運動会の様子、そして毎日夕方に行っているグループ農作業の経過についてお伝えいたします。

運動会

毎年恒例の運動会も、今年で8回目を迎えました。近年では子どもたちが中心となって進行や審判も行うようになったため、以前のように職員が走り回って大忙し、ということはなく、少し寂しいような、子どもの成長が嬉しいような気分で、運動会当日を迎えました。

当日の朝、8時前には全員集合し、開会式、選手宣誓を行いました。それぞれのチームのリーダーが、『正々堂々と戦うこと』を誓いました。そして全員で準備運動をした後は、ついに競技の開始です。

最初の50m走では、4チームずつに分かれて走ります。この競技に限り個人表彰されるため、皆非常に気合が入っており、朝一番とは思えないほどの盛り上がりを見せていました。

次の綱引きと大縄では、チームで協力しなければ勝利をつかむことは出来ません。助け合い、励ましあうことの出来るチーム、強いリーダーシップの取れるリーダーのいるチームが勝ち進むことができていました。

そして袋跳びレースです。これは袋に両足を入れて跳び進みながらのレースで、とても難しい競技です。特にまだ小さい学年の子は袋よりも身体が小さく、身体全体が袋に隠れてしまって、うまく跳ぶことが出来ません。それでもチーム全体で声を掛け合いながら、小さい子の袋の出し入れを手伝いながら、何とかチームの勝利をもぎ取っていました。



小さい子も大きい子も協力しての綱引き



意外と難しい袋跳びレース



最後のチーム対抗リレーは大盛り上がり

昼休憩を挟んで玉入れ、ドッジボールと行った後は、最後の一番、チーム対抗リレーです。園内を一周するコースをチーム全員で順番に走るリレーは、この日最大の盛り上がりを見せました。走り終えた子どもたちは皆ヘトヘトに疲れきっていましたが、やりきった充足感と満足感でいつも以上に明るい笑顔を見せていました。

競技が全て終わった後は、センターホールに集まって順位発表と表彰式です。勝ったチームには賞品としておもちゃや文具などをプレゼントします。また、50m走で一位になった子どもには、ノートとペンを贈りました。

今年の運動会でも、勝ったチームの子どもたちも負けたチームの子どもたち皆、正々堂々と精一杯戦い、助け合い、励ましあうことが出来ました。表彰式の最後には、皆の健闘を称え、ご褒美としてコーラを一人一本プレゼントしました。

年に一度運動会を行うことで、普段は運動をしない子どもでも身体を動かし、気分をリフレッシュさせることが出来ます。運動が得意な子が運動が苦手な子をフォローし、チーム一丸となって勝利を目指した経験を元に、普段の生活でもお互いに補い合い、励ましあい、助け合い、支えあって生活していくことの大切さを知って欲しいと思います。



優勝チーム！おめでとう！

グループ農作業

カンボジアでは例年、5月から雨季に入ります。4月はまだ乾季で雨もなく、クメール正月での一時帰省があるため、各グループの畑では新たに種を植えることはせず、作物を収穫したり、収穫後の整地をしたり、という作業ばかりが続いていました。しかし、雨が降り始めた4月末からは、本格的に作業を再開出来る、と子どもたちはとても楽しみにしていました。

子どもたちが待ちに待った雨季ですが、雨季の始めは2、3日に一度降れば良いほどです。それでも、乾季で連日太陽に照らされて硬くなってしまった農園の土は、恵みの雨で少しずつ軟らかくなり、耕耘機や鍬で掘り起こすことが出来るようになりました。

まずは雨で湿った土に耕耘機をかけ、軟らかくします。そこから子どもたちは鍬でさらに耕していきます。そして土中深くまで耕した後は、畝を作って種を植えていきます。今回人気の作物は、空芯菜、落花生、ささげ、レタスです。グループ農作業を始めて3年が経ちますが、今までの経験から、何の作物が良く育つのか、どの時期に植え、どのように畝を作るのか、を子どもたちは良く知っています。

将来もし仕事が無くなったとしても、子どもたちが自分の力で食べていけるよう、農業の知識を少しでも増やして欲しいと思います。



鍬で耕し畝を作ります



大きい子も小さい子も協力しています